

住まい方の質を向上しよう

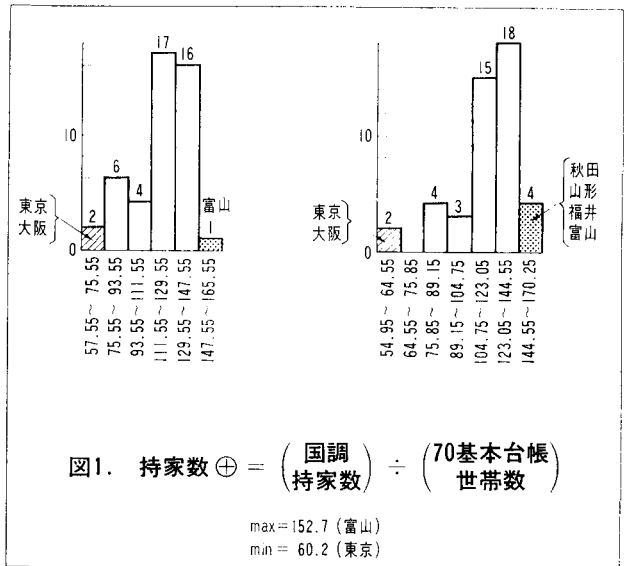
江 副 力

日本の核家族化は依然として進行中で、東京の1世帯あたりの人数はついに3人台を割って2.92人になった(昭和50年国勢調査概数)。これを日本全体でみれば、昭和40年の4.08人を基準とすれば、45年はその91%の3.73人となり、さらに50年には85%の3.48人と減少している。

そして、このような核家族化はでていく人たちに自由と独立を生み出す反面、いわゆる分割損の増大となって、住宅費をはじめ家計消費をふやしたり、また祖先からの英知の蓄積であるお年寄りからの情報の欠如などを生じているが、このあたりで住まい方の質を考えなおす必要があるのではなかろうか。

ところで、都道府県別の持家数は図1左に示すように、ほぼ正規分布に近い形をしており、持家数のもっとも少ない東京にくらべて、最大の富山は2.5倍にもなっている。

そして、図1左図(生データの分布)とくらべた右図(対数変換後の分布)の形の変化は、4月号以来の新しいパターンを呈している。

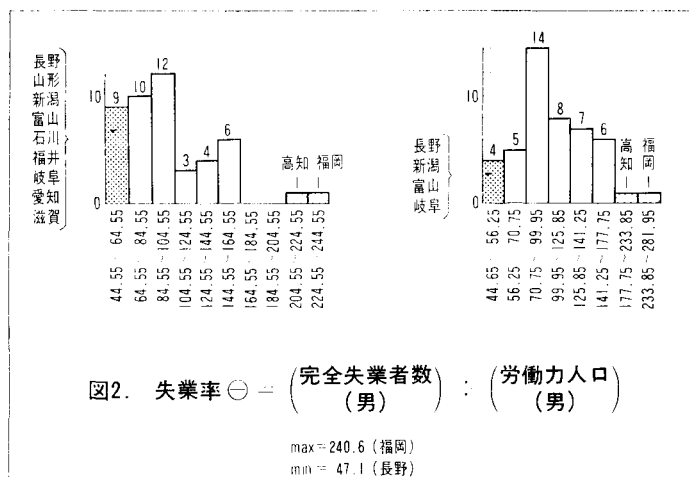


すなわち、図1左図のように生データがすでにほぼ左右対称の正規分布をしている場合、これを対数変換した後の分布は、図1右に示すように、モードが中心よりも右のほうに寄ったり、また、値の小さい左方に離島ができたりすることである。

つぎに失業率の分布の形は、4月号にあげた工場敷地面積の場合と同様に、その生データの分布は図2左のように指数分布に近いことがわかる。そしてこの失業率を対数変換して分布にあらわすと図2右のように、ほぼ正規分布に近くなることも、すでに4月号でみたことと同じである。

最後に図3左の家出人の分布では、青森・大阪が大きいほうにとび離れており、家出人の最低である島根に対して、最大の大阪は2.5倍にあたっている。

そして、これを対数変換したところ、青森・大阪のつくっていた離島までのへだた



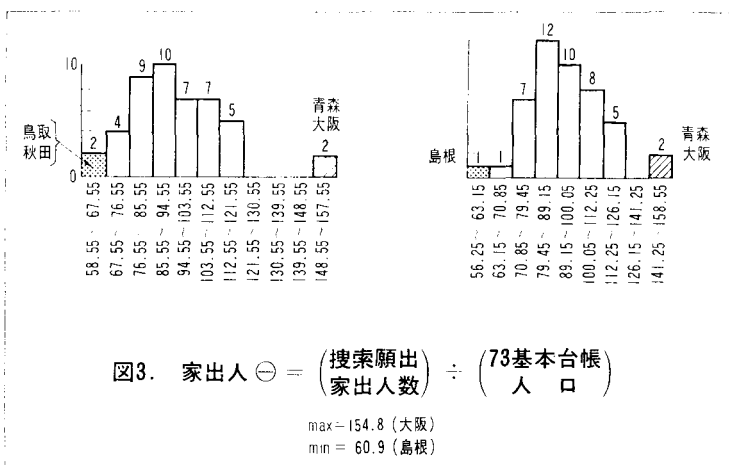
りがずっと縮まり、分布の形はほぼ左右対称で正規分布に近づいている。

なお、4月号にあげた工場敷地面積と今月号の家出人との関係でおもしろいことは、福島を除く東北5県でみると、工場敷地面積の小さい順序は、青森・山形・岩手・宮城・秋田となっているが、この順序は実は家出人の多い順序にもなっている。すなわち、青森は工場敷地面積はもっとも少ないが、家出人は最高であるのに対して、秋田はそれの反対に、工場敷地面積がもっとも多く家出人はもっとも少なくなっている。

ところで、高度成長期には住まい方の質の向上に、各種の高級消費材が貢献したが、低成長期に入った現在、あらゆるグラフを書くことによって、住まい方の質を見

なおせば、これからやがて新しい高級消費材のヒントを与えることもできよう。(つづく)

(えぞえ・つとむ 日本電信電話公社)



FORUM

応用多変量解析

出版案内

B.W.ボルチ・C.J.ファング原著／中村慶一訳

例題の多くは計量経済学と経営学に関連するものからなっているが、本書は全体をマトリクス表現で扱い、各章末ごとにその章の主な内容をコンピュータプログラムで表現している点が特色であり、さまざまな分野で統計学を必要とする読者にとって好個の参考書である。
《目次》 1：数学的準備 2：正規分布と統計的推測 3：平均値に関する検定 4：線形回帰分析 5：相関分析、分散分析、共分散分析 6：非線形回帰分析 7：判別分析、主成分分析、正準相関分析 8：スペクトル解析

■A5判・298頁 2800円

応 用 統 計 学

中村慶一訳
菊・3200円

応 用 回 帰 分 析

中村慶一訳
菊・2500円

確率・統計ハンドブック

林・脇本監訳
A5・4500円

情報数学ハンドブック

宮本・松本・松野共訳
菊・4800円



森北出版

〒102・東京都千代田区富士見1-4-11・電話03-265-8341代表・振替〈東京〉1-34757